



本機は、エアフィルターに付いたほこりを、屋外に自動排出するおそうじ機能を搭載しています

- 建物の構造や設置条件により、自動排出工事ができない場合があります。必ず確認の後、工事を始めてください。

品番

室内ユニット

CS-X220D	CS-X250D	CS-X280D
CS-X360D	CS-X400D	CS-X400D2
CS-X560D2	CS-X630D2	CS-X710D2
CS-X800D2	CS-X900D2	

CS-XS220D	CS-XS250D	CS-XS280D
CS-XS280D2	CS-XS360D	CS-XS360D2
CS-XS400D	CS-XS400D2	CS-XS560D2
CS-XS630D2	CS-XS710D2	CS-XS800D2
CS-XS900D2		

CS-220DX	CS-250DX	CS-280DX
CS-280DX2	CS-360DX	CS-360DX2
CS-400DX	CS-400DX2	CS-560DX2
CS-630DX2	CS-710DX2	CS-800DX2
CS-900DX2		

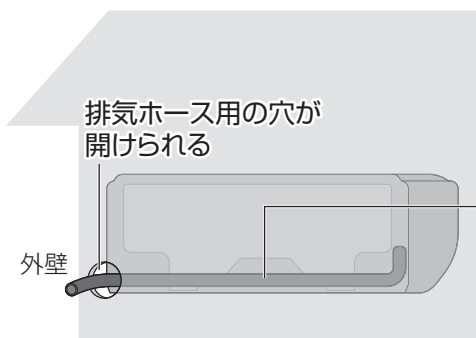
CS-220DXE	CS-250DXE	CS-280DXE
CS-280DX2E	CS-360DXE	CS-360DX2E
CS-400DXE	CS-400DX2E	CS-560DX2E
CS-630DX2E	CS-710DX2E	CS-800DX2E
CS-900DX2E		

室外ユニット

CU-Xシリーズ	CU-XSシリーズ	CU-DXシリーズ
CU-DXEシリーズ		

- 据付工事説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に据え付けてください。特に「安全上のご注意」(P.4)は、据え付け前に必ずお読みください。
- この据付工事説明書は、お客様に保管をお願いしてください。

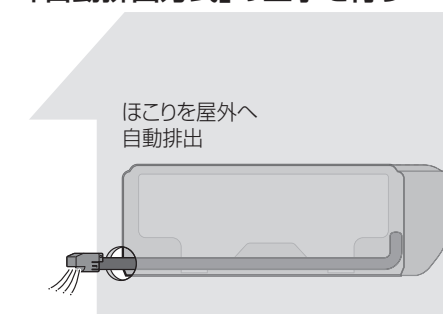
自動排出工事ができる場合



- 排気ホース
(次の条件にあること)
- 全長5 m以内
 - 立ち上がり1 m以内
 - 5曲がり以内

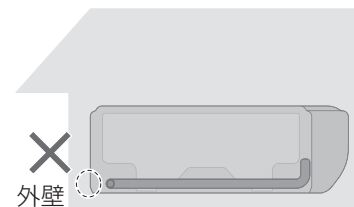
工事手順をご確認ください P.2

「自動排出方式」の工事を行う

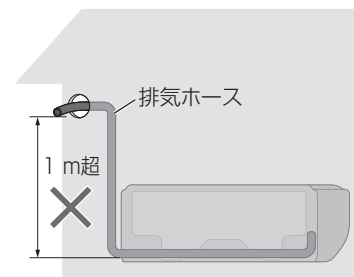


自動排出工事ができない場合

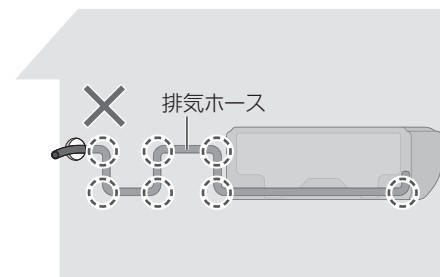
- 排気ホース用の穴が開けられない
- 全長5 mを超える



- 立ち上がりが1 mを超える

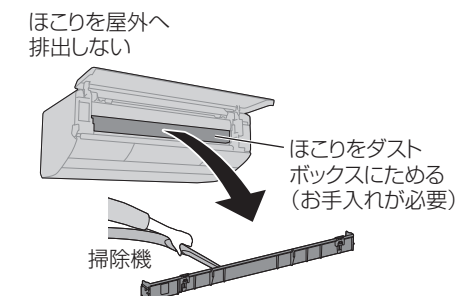


- 5曲がりを超える



工事手順をご確認ください P.3

お客様が定期的に掃除をしていただく「ダストボックス方式」の工事を行う



- ①お客様に工事の同意を得る。
- ②「ダストボックス方式」の工事を行う。
- ③お客様にお手入れの方法を説明する。(取扱説明書参照)

据え付けの手順

- 1 据え付け場所を確認する (P.6)
- 2 配管穴をあける/
据付板を取り付ける (P.7)
- 3 室内ユニットを準備する
 - 配管・ドレンホース・排気ホースをまとめる (P.8)
 - 内外接続電線をつなぐ (P.13)
- 4 室内ユニットを据え付ける
 - 据付板にかける (P.9)
 - 排気ホースの先端を処理する (P.9)
- 5 室外ユニットを据え付ける
 - 据え付けかた (P.12)
- 6 配管を接続する
 - 室内ユニット (P.12)
 - 室外ユニット (P.12)
- 7 内外接続電線をつなぐ
 - 室外ユニット (P.13)
- 8 エアパージをする (P.13)
- 9 点検する (P.14)
- 10 試運転をする (P.14)

排気ホースの
取り付け工事が
必要です

使用する工具

- ☐ ドライバー (⊕・⊖)
- ☐ 金ノコギリ
- ☐ 検電計
- ☐ Φ65 mmまたはΦ70 mmホールコアドリル
- ☐ 六角レンチ (対辺4 mm)
- ☐ スパナまたはモンキーレンチ
- ☐ クラッチ式フレアツール (R410A、R32用)
- ☐ パイプカッター
- ☐ リーマ
- ☐ ナイフまたはカッター
- ☐ 水準器
- ☐ 巻尺
- ☐ クランプメーター
- ☐ 温度計
- ☐ メガネレンチ (7 mm)
- ☐ ラチェットレンチ
- ☐ トルクレンチ
 - 18 N・m (1.8 kgf・m)
 - 42 N・m (4.2 kgf・m)
 - 55 N・m (5.5 kgf・m)
- ☐ ガス漏れ検知液またはHFC専用電気式ガス漏れ検知器
- ☐ ベンダー
- ☐ 真空ポンプ
- ☐ 真空ポンプアダプター (R410A、R32用)
- ☐ ゲージマニホールド (R410A、R32用)
- ☐ チャージホース (R410A、R32用)
- ☐ 出し代調整用銅管ゲージ

現地で準備していただくもの

- ☐ 内外接続電線
- ☐ 冷媒配管
- ☐ 配管テープ、ビニールテープ
- ☐ 配管穴用パイプ
- ☐ 配管工事部材
- ☐ 配管固定用バンド、ネジ
- ☐ ドレンホース (室内/室外ユニット用)
- ☐ パテまたはコーキング材
- ☐ アース棒、アース線、アース端子
- 必要部材は、エアコンアクセサリカタログよりお選びください。

付属品

室内ユニット同梱品

- 室内ユニット用据付板 (1枚)
- 据付板固定ネジ (6本) (Φ4×25 mm)

- リモコン (1個)
 - 単3形アルカリ乾電池 (2本)
- リモコンとリモコンホルダーは本体にテープで固定されています。

- リモコンホルダー (1個)
- リモコンホルダー取付ネジ (2本) (Φ3×14 mm)

- 配管押さえバンド (1本) (①と②を組み付ける)

排気工専用

- 排気ホース (1本) (Φ18.5 : L2 m)

- ダクトカウス (1個)
 - 先端カバー (1個)
 - 排気ホースジョイント (1本)
- (右緩衝材)

室外ユニット同梱品

- ドレンエルボ (1個)

据え付けの手順

- 1 据え付け場所を確認する (P.6)
- 2 配管穴をあける/
据付板を取り付ける (P.7)

ダストボックスの
切り替え工事が
必要です
- 3 室内ユニットを
準備する
 - ダストボックス方式に
切り替える(P.10)
 - 配管・ドレンホースを
まとめる(P.11)
 - 内外接続電線をつなぐ
(P.13)
- 4 室内ユニットを
据え付ける
 - 据付板にかける(P.11)
- 5 室外ユニットを
据え付ける
 - 据え付けかた(P.12)
- 6 配管を接続する
 - 室内ユニット(P.12)
 - 室外ユニット(P.12)
- 7 内外接続電線をつなぐ
 - 室外ユニット(P.13)
- 8 エアパージをする (P.13)
- 9 点検する (P.14)
- 10 試運転をする (P.14)

使用する工具

- ☐ ドライバー (⊕・⊖)
- ☐ 金ノコギリ
- ☐ 検電計
- ☐ Φ65 mmまたは
Φ70 mmホールコアドリル
- ☐ 六角レンチ(対辺4 mm)
- ☐ スパナまたはモンキーレンチ
- ☐ クラッチ式フレアツール
(R410A、R32用)
- ☐ パイプカッター
- ☐ リーマ
- ☐ ナイフまたはカッター
- ☐ 水準器
- ☐ 巻尺
- ☐ クランプメーター
- ☐ 温度計
- ☐ メガネレンチ(7 mm)
- ☐ ラチェットレンチ
- ☐ トルクレンチ
 - ・18 N・m(1.8 kgf・m)
 - ・42 N・m(4.2 kgf・m)
 - ・55 N・m(5.5 kgf・m)
- ☐ ガス漏れ検知液またはHFC専用電気式
ガス漏れ検知器
- ☐ ベンダー
- ☐ 真空ポンプ
- ☐ 真空ポンプアダプター
(R410A、R32用)
- ☐ ゲージマニホールド(R410A、R32用)
- ☐ チャージホース(R410A、R32用)
- ☐ 出し代調整用銅管ゲージ

現地で準備していただくもの

- ☐ 内外接続電線
- ☐ 冷媒配管
- ☐ 配管テープ、ビニールテープ
- ☐ 配管穴用パイプ
- ☐ 配管工事部材
- ☐ 配管固定用バンド、ネジ
- ☐ ドレンホース(室内/室外ユニット用)
- ☐ パテまたはコーキング材
- ☐ アース棒、アース線、アース端子
- 必要部材は、エアコンアクセサリカタログよりお選びください。

付属品

室内ユニット同梱品

- 室内ユニット用据付板(1枚)
- 据付板固定ネジ
(6本)
(Φ4×25 mm)

- リモコン(1個)
 - 単3形アルカリ
乾電池(2本)
- リモコンとリモコンホルダーは
本体にテープで固定されています。

- リモコン
ホルダー
(1個)
- リモコンホルダー
取付ネジ(2本)
(Φ3×14 mm)

- 配管押さえバンド
(1本)
(㊶と㊵を組み付ける)

排気工事用の部品は使用しません

- 排気ホース(1本)
(Φ18.5・L2 m)
 - ダクトカウス
(1個)
 - 先端カバー
(1個)
 - 排気ホース
ジョイント
(1本)
- (右緩衝材)

室外ユニット同梱品

- ドレンエルボ
(1個)

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。



警告



■ 室外ユニットは、ベランダの手すり近くに据え付けない
(お子様が登り、落下のおそれ)

■ 電源コードの加工や途中接続、延長コードの使用、タコ足配線をしない
(絶縁不良や許容電流オーバーなどにより、感電や火災の原因)

■ 電源コードを破損するようなことをしない
・バンドなどで束ねて収納しない
・本体との挟み込みを発生させない
(発熱や発火、火災の原因)

■ 据え付けや移設時、冷凍サイクル(配管)内に、指定冷媒(R32)以外の空気などを混入させない
(冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)

■ 指定冷媒以外は使用(冷媒補充・入替え)しない
(故障や破壊、けがなどの原因)

■ 据付作業終了までは、電源プラグをささない

■ 室内ユニット、室外ユニットの吹出口に指や棒などを入れない

■ 医療機器や自動ドア、火災警報器などの自動制御機器の近くには据え付けない
(室内ユニットからの電波が機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因)



■ 漏電しゃ断器を取り付ける
(漏電時の感電や火災の原因)

■ 配線用しゃ断器(ブレーカー)を取り付ける
(異常時の感電や火災の原因)

■ 電気工事は、電気工事士の資格がある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」に従って施工し、必ず専用回路を使用する
(施工の不備や電気回路容量に不足があると、感電や火災の原因)

■ 据付工事は、お買い上げの販売店や専門業者が必ず指定の部品を使って実施する
(ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因)

■ 据え付けは、重量に十分耐えられる所へ確実に行う
(ユニットの落下によるけがの原因)



■ 配管やフレアーナット、工具はR410A、R32用を使用する
(R22用では、故障や冷凍サイクルの破裂など重大事故の原因)

■ フレアーナットは、トルクレンチで指定の方法で締める
(締めすぎると、長期経過後ナットが割れ、冷媒漏れの原因)

■ 内外接続電線は、途中接続やより線の使用はせず、所定のケーブルで接続し、端子接続部に外力が伝わらないように固定する
(故障や発熱、火災の原因)

■ 内外接続電線は、端子カバーが浮き上がらないように成形し、カバーを確実に取り付ける
(カバーの隙間から雨水などが入ると、接続部の発熱、火災や感電の原因)

■ 据付作業では圧縮機の運転前に、冷媒配管を取り付ける。また、ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する
(冷媒配管を取り付けず、二方弁や三方弁を開放した状態で運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)

■ 据付作業中に冷媒が漏れたときは換気をする。また、据付完了後は、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
(冷媒が火気に触れると有毒ガスの発生や火災の原因)

■ 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む
(感電や火災の原因)
→コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。



■ アース工事を行う
ベランダの手すりやガス管、水道管、避雷針、電話などのアースに接続しない
(感電の原因)

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容
(禁止事項)です。



実行しなければならない
内容(強制事項)です。



注意



■ 室外ユニットの吸込口やアルミフィンに触らない
(けがの原因)

■ 室外ユニットは、小動物が入るような場所に据え付けない
(小動物が侵入して電気部品に触れると故障や発煙、発火の原因)
また、お客様に室外ユニットの周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

■ 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への据え付けはしない
(発火の原因)

■ 内装工事で床面にワックスをかけたときは、すぐに運転をしない
(本体内部にワックスの揮発成分が付着し、水漏れや水飛びの原因)
→窓やドアを開けて十分に換気をした後、運転をする。



■ 接続電線や配管を壁に貫通させるときは、配管穴用パイプとブッシングを必ず使用する
(配管の結露による水漏れの原因。また、接続電線と壁中のメタルラスとの接触や、ねずみなどに電線がかじられたりして破損すると、発熱・発火や感電の原因)

■ ドレン工事は、確実に排水するように配管する
(屋内に浸水し、家財などを濡らす原因)

アース/しゃ断器(ブレーカー)



警告



■ アース工事を行う
ベランダの手すりやガス管、水道管、避雷針、電話などのアースに接続しない(感電の原因)



■ 漏電しゃ断器を取り付ける
(漏電時の感電や火災の原因)

■ 配線用しゃ断器(ブレーカー)を取り付ける(異常時の感電や火災の原因)

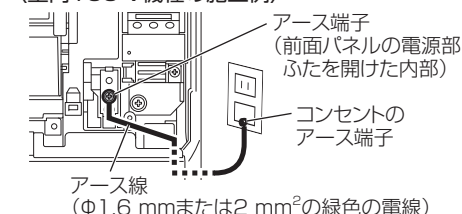
アース工事、漏電しゃ断器・配線用しゃ断器(ブレーカー)の取り付けは必ず実施してください。

(「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士が行う)

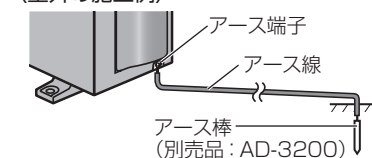
アース

- 接地抵抗値は100Ω以下。
(漏電しゃ断器取付時は500Ω以下)
- 室内ユニットまたは室外ユニットのどちらか一方でアースを取る。
200V機種はアース付電源プラグになっています。

〈室内100V機種の施工例〉



〈室外の施工例〉



漏電しゃ断器

- 高感度形および高速形で衝撃波不動作形のものを使用する。

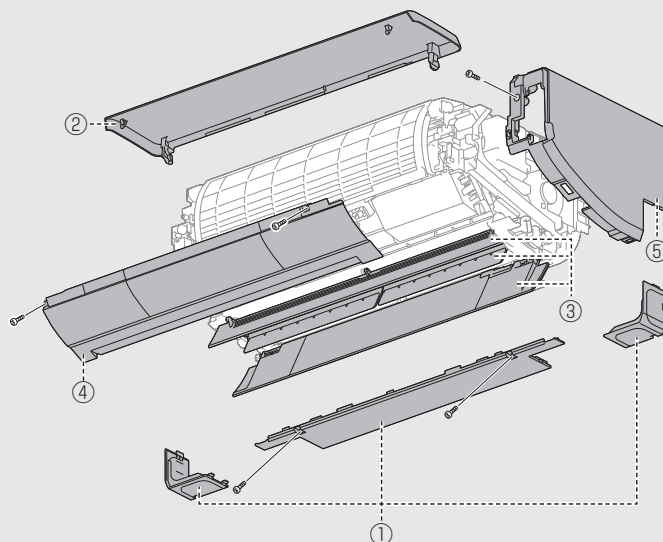
配線用しゃ断器(ブレーカー)

- 必ず専用回路を使用する。

遠隔操作機器を接続するとき

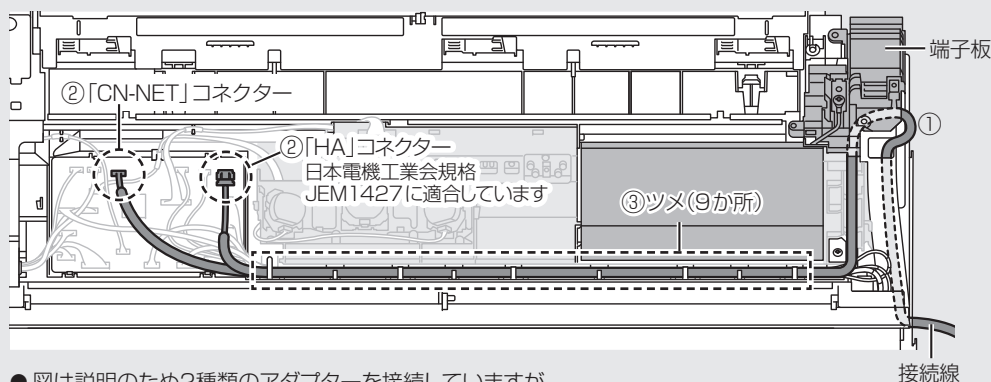
- 本体の据付と同時に作業する場合は、据付板にかける前に実施してください。
- 必ず電源プラグを抜き、3分待ってから作業してください。

準備(共通)



- ① 下枠をはずす。(P.9)
- ② 前面パネルをはずす。
- ③ 上下風向ルーバー(4枚)をゆっくり開ける。
- ④ センサーカバーをはずす。
 - ・ネジ2本をはずし正面に引き抜く。
- ⑤ 前面グリル(右)をはずす。
 - ・ネジ1本をはずし、前方に引く。

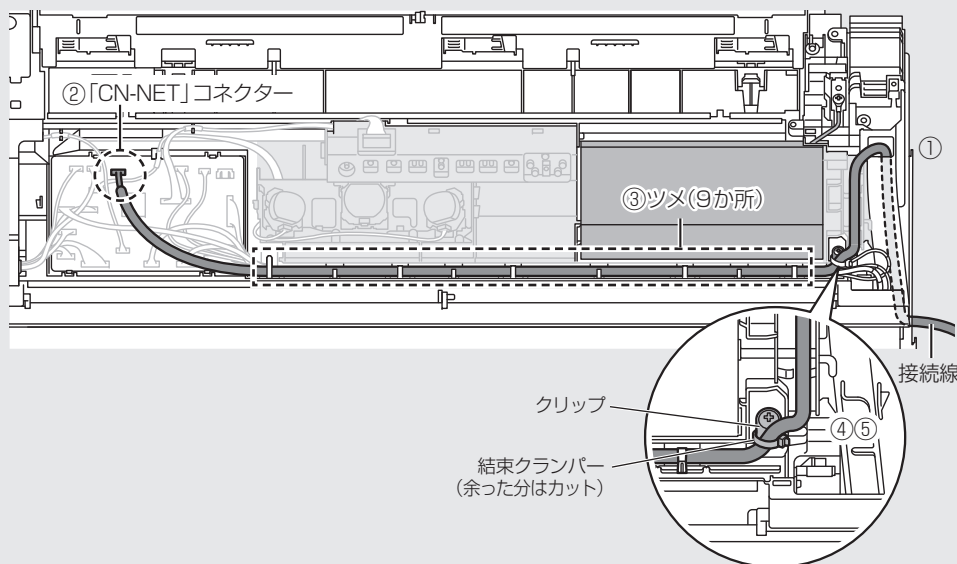
HAアダプター (CZ-TA2) / 無線アダプター (CF-TA9: HEMS機器接続用)



- 図は説明のため2種類のアダプターを接続していますが、2本同時に配線することはできません。

- ① 接続線を内外接続電線の挿入口から引き出し、端子板の裏を通して表側に引き出す。
- ② HAアダプターの場合
接続線を「HA」コネクタに差し込む。
(リモコンの設定は不要)
無線アダプターの場合
接続線を「CN-NET」コネクタに差し込む。
- ③ 接続線をツメで固定する。
- ④ 無線アダプターの場合
リモコンのメニューで本体の設定を変更する。
 - ・ P.15「遠隔操作機器を接続するとき」
 - ・ 「遠隔操作 あり」に変更 (取扱説明書参照)

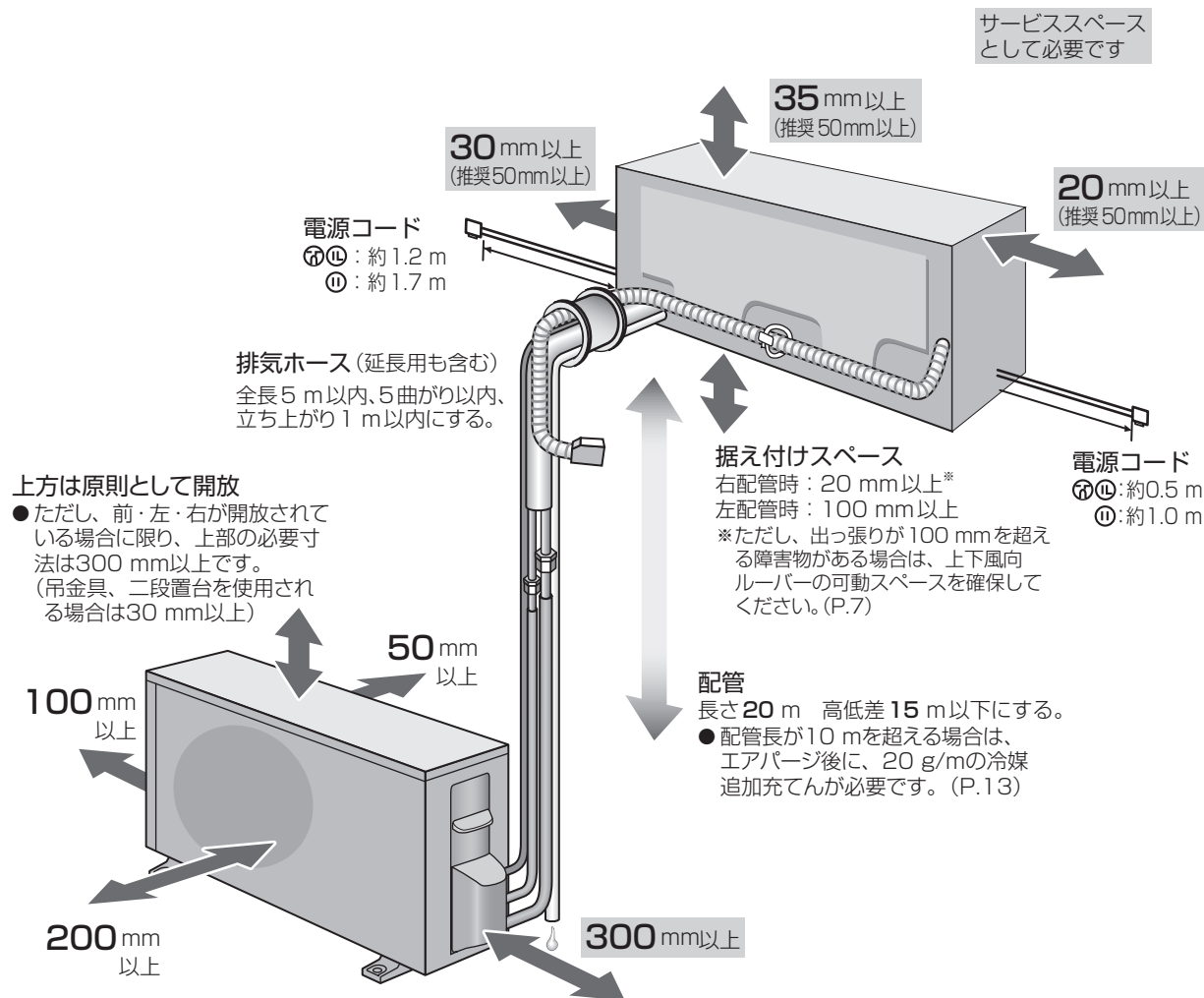
RACローカルアダプター (CZ-CAPR1: パッケージエアコン制御機器接続用)



- ① 接続線を内外接続電線の挿入口から引き出す。
- ② 接続線を「CN-NET」コネクタに差し込む。
- ③ 接続線をツメで固定する。
- ④ クリップを電源ボックス横のネジに取り付ける。
- ⑤ 接続線を結束クランパーでクリップに固定する。
(クリップと結束クランパーはRACローカルアダプターに同梱)
- ⑥ リモコンのメニューで本体の設定を変更する。
 - ・ P.15「遠隔操作機器を接続するとき」
 - ・ 「遠隔操作 あり」に変更 (取扱説明書参照)

① 据え付け場所を確認する

室内・室外ユニットは、水平に付けられ、かつ重量を十分に支えられて騒音や振動が増大しない場所へ必ずお客様の同意を得て、据え付けてください。
据付場所に余裕があるときは、周囲のスペースをできるだけ広くとってください。



- 放熱のため、前・後・左・右・上・下のうち少なくとも3方向は開放し通風路を確保する。2方向しか開放できない場合は冷暖房能力・消費電力が10%程度悪化するおそれがあります。

室内ユニット

- 近くに熱や蒸気、油煙(調理場や機械工場など)の発生がない。
- ドレン排水が容易にできる。
- 出入り口の扉の上は避け、電源(専用回路)に近い。
- 冷風や温風が部屋全体に行きわたる。
(据付高さは、床面から1.8m~2.3mが目安)
- 吹出口が火災警報器から1.5m以上離れている。
- 室内ユニットと電源コードは、テレビ・ラジオ・無線機とそのアンテナケーブル線、蛍光灯*から1m以上、電話機から2m以上の間隔がとれる。
※電子点灯方式の蛍光灯(インバーター・ラピッドスタート式など)の近くに設置するとリモコンの信号を受け付けられないことがあります。

室外ユニット

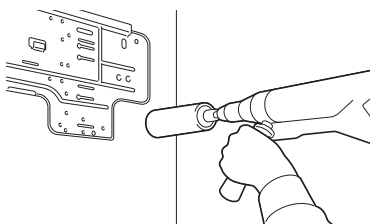
- 雨や直射日光が当たりにくく、風通しがよい。
- 吹出口からの熱風・冷風が周囲の迷惑にならない、動植物に当たらない。
- テレビ・無線機のアンテナから3m以上、およびそのケーブル線から2m以上の間隔がとれる。
- 可燃性ガスの漏れるおそれがない。(プロパンガス容器からは2m以上離す)
- ドレン排水をしても問題がない。
- 悪臭や有毒ガス、油、蒸気、油煙が発生しない。
- 積雪により吸込口、吹出口がふさがれない。
- 北側や西側など、季節風の当たる場所は避ける。
- 吹出口の正面に、強風が連続的に吹き付けない。
(ファンが高速で回転し、故障や破損のおそれ)

リモコンホルダーの取付位置

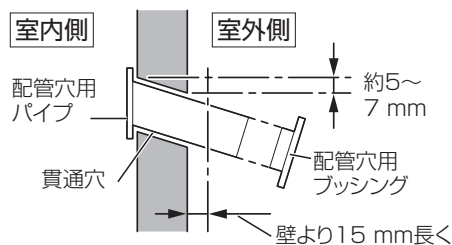
- 直射日光やストーブなどの熱の影響を受けない。
- リモコンのお知らせボタンを押して、送受信が確認できる。
(リモコンに室温表示などが出る)

② 配管穴をあける/据付板を取り付ける

配管穴をあける



- 穴は外側に下り勾配をつけてあける。



必ず配管穴用パイプとプッシングを使用する。

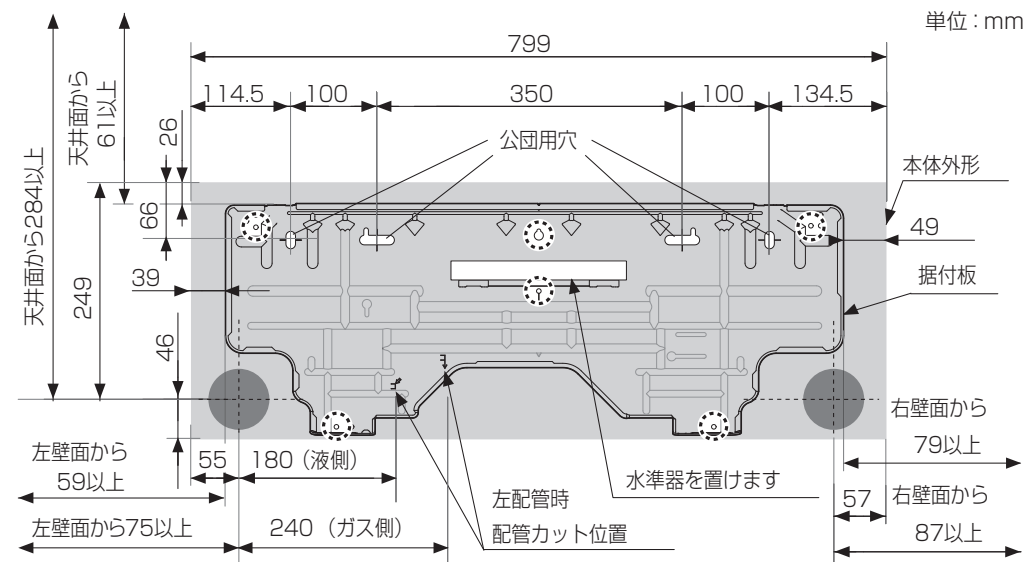
- 配管穴用パイプは、15 mm出して切断し、隙間がないようにパテまたはコーキング材で仕上げる。
(電線と壁中のメタルラスとの接触や結露による水漏れ、小動物の侵入などを防止するため)

貫通穴径	Φ70 mm	Φ65 mm
配管穴用パイプ	CZ-HAP2-C	CZ-HAP1-C
配管穴用プッシング	CZ-HAB2-C/T	CZ-HAB1-C/T
配管径	2/4分管	2/3分管

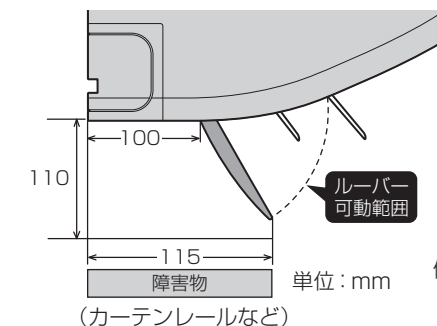
据付板を取り付ける

据付用の型紙は、梱包段ボール底面に記載しています。

- 必ず、ネジは6本以上(下図の丸印:○)で水平に固定する。
- 公団住宅用アンカーボルト固定の場合、壁面からのボルト出寸法は11 mm以下で仕上げる。

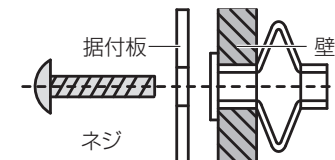


- 上下風向ルーバーの可動スペースを確保する。



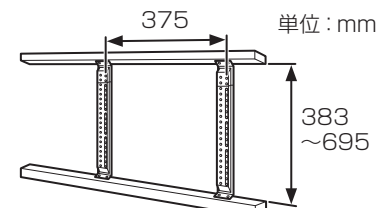
例：障害物の出っ張りが115 mmの場合
本体下面と障害物との隙間は、
110 mm以上確保してください。

石膏ボードの場合



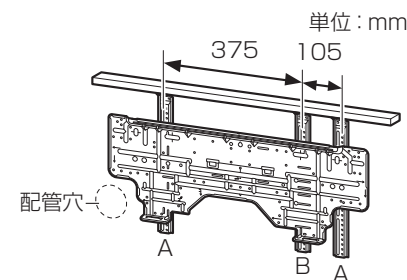
金属製力サ式ボードアンカー (締め付け変形後)を使用する。(ねじ込み式は使用しない)

回り縁と鴨居の場合



室内機据付枠(別売品：DAB3101)を使用する。

- 上下風向ルーバーが長押しと接触しないこと。
- 吊り下げ設置する場合は、3つの枠を据付板に仮止めしてから回り縁に固定する。

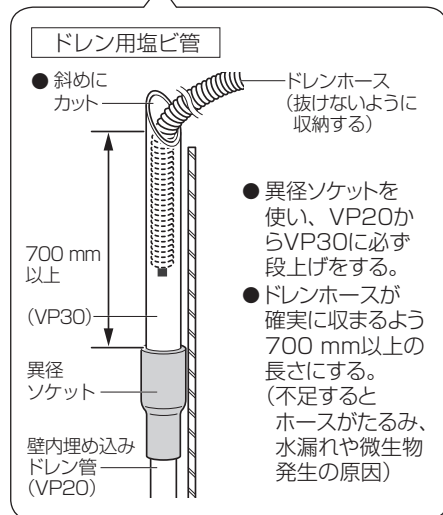
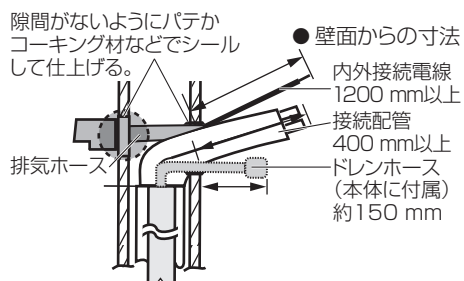


3 自動排出方式 室内ユニットを準備する

埋め込み配管のとき

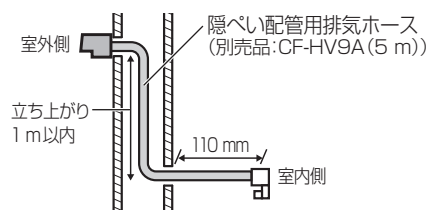
■排気ホース用の穴をあけるとき

→Φ25 mm～Φ35 mmの穴をあける



■排気ホースを埋め込むとき

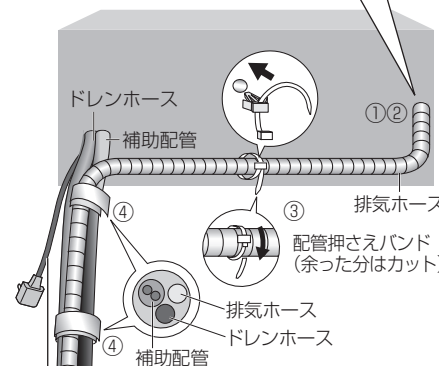
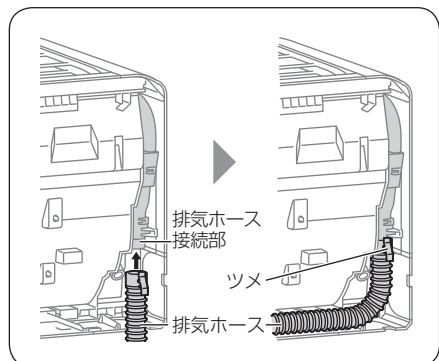
→排気ホースは全長5 m以内、5曲がり以内、立ち上がり1 m以内にする。



● 既設の排気ホースは径が異なる場合があります。ご確認ください。

配管・ドレンホース・排気ホースをまとめる

右配管のとき



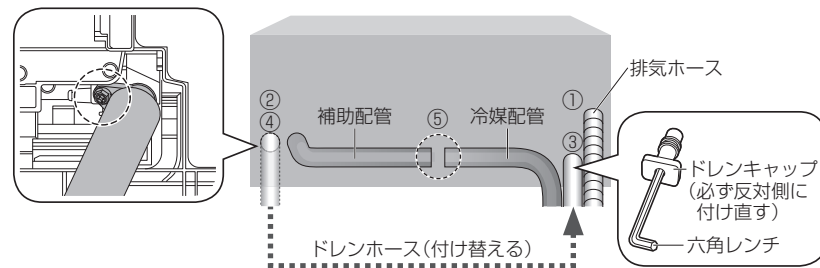
電源コード

- 束ねて収納しない。
- 天面の隙間に置かない。

- ① 排気ホースのツメを上図のように向けて、排気ホース接続部に差し込む。
- ② 排気ホースを軽く引っ張り、ツメが固定されていることを確認する。
- ③ 配管押さえバンドを取り付け、排気ホースを固定する。
- ④ 補助配管と排気ホース、ドレンホースをまとめる。

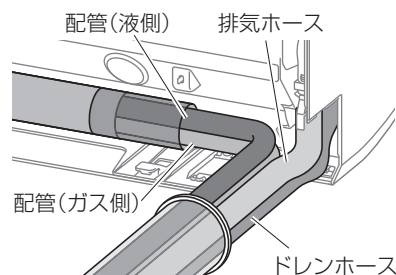
■ 内外接続電線のつなぎかたは→P.13

左配管のとき



- ① 右配管と同様に排気ホースを固定する。
- ② ドレンホースを固定している六角ネジ (7 mm) をはずし、ドレンホースをはずす。
- ③ ドレンキャップをはずし、そこにドレンホースを付け替え、六角ネジで固定する。
 - 付属のドレンホースを必ず使用する。
 - ドレンホースは本体背面で横引きしない。(水漏れなどの原因)
- ④ はずしたドレンキャップは、六角レンチ (4 mm) で反対側に押し込む。
- ⑤ 配管を接続する。

その場合の冷媒配管の曲げ加工、接続方法は「⑥ 配管を接続する(P.12)」を参照してください。
- ⑥ 右配管と同様に、配管類をまとめる。

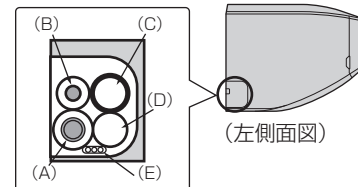


● ドレンホースの固定とドレンキャップの取り付けは確実に行う。(水漏れの原因)

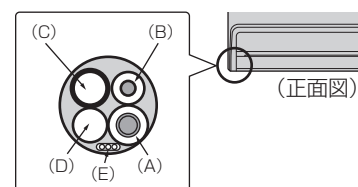
■ 内外接続電線のつなぎかたは→P.13

配管のまとめかた (例)

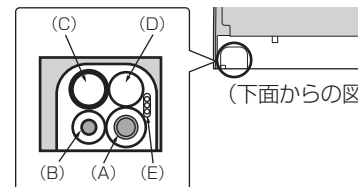
● 左横出しの場合



● 左後ろ出しの場合



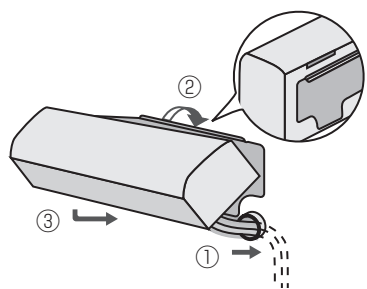
● 左下出しの場合



(A): 配管 (ガス側) (B): 配管 (液側)
(C): 排気ホース (D): ドレンホース
(E): 内外接続電線

4 自動排出方式 室内ユニットを据え付ける

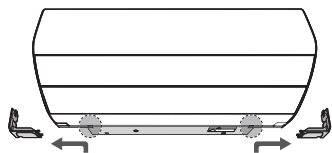
据付板にかける



- ① 配管類と接続電線を配管穴に挿入する。
- ② 上部を据付板にかける。(水平に)
- ③ 下部を固定する。

■左配管のとき

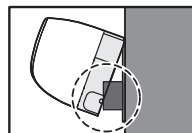
背面で配管を接続する場合、次の準備をしておくとお作業が行いやすくなります。



●下枠をはずす。

- ① L板をはずす。
 - ② 左右のキャップを下げる。
 - ③ ネジをはずす。
 - ④ 指をかけて下方に引きながら手前に引く。
- ・下枠には本体ラベルが貼ってあるため、必ず元の本体に取り付けてください。

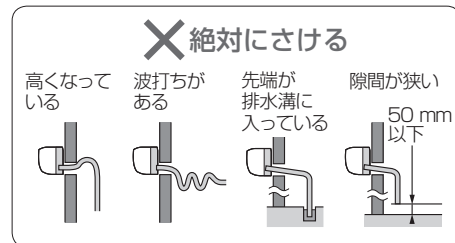
●緩衝材などを挟み込む。



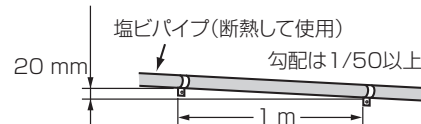
■ドレンホースの引き回しかた

○下り勾配をつける

- 設置後、必ず水を流してドレン排水を確認してください。(P.14)



●やむを得ず横引きする場合

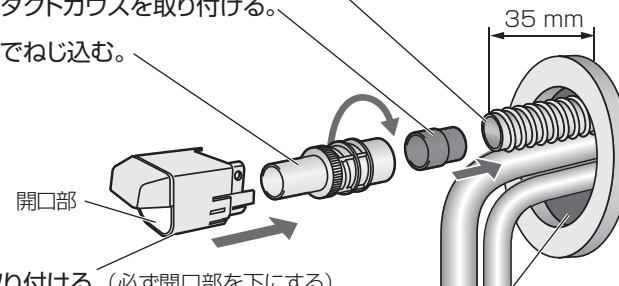


- 高気密住宅などで換気扇などを使用した時や、強風時などに、ドレンホースから外気が流入し、「ポコポコ」という音が発生する場合があります。その場合は、小型エアカットバルブ(別売品: DAD7102)をご使用ください。

排気ホースの先端を処理する

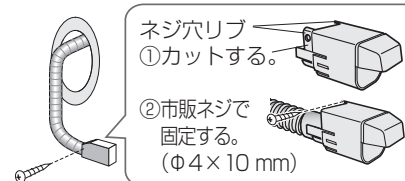
排気ホースの先端からほこりが排出されます。

- ① 35 mm残して切る。(バリが無いこと)
- ② ホースにダクトカウスを取り付ける。
- ③ 止まるまでねじ込む。



- ④ 水平に取り付ける。(必ず開口部を下にする)
● 先端カバー内部の排気ダンパーがスムーズに開閉することを確認してください。
- ⑤ 隙間がないようにパテまたはコーキング材で埋める。

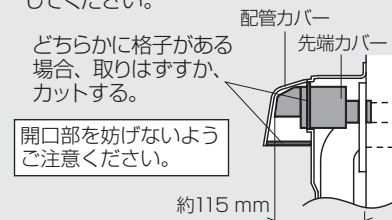
■配管穴の近くで処理できないとき



- 延長する場合は、(別売品: CF-HV7)をご使用ください。

配管カバー使用時の注意点

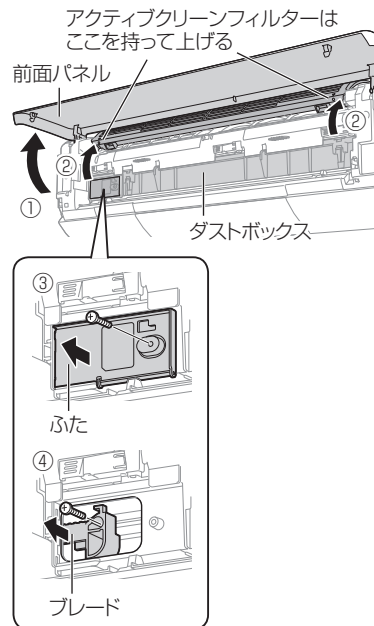
- パナソニック製の「フィルターお掃除ロボット」(自動排出方式)に対応した配管カバーを推奨します。
- 他社製の配管カバーで、格子がある場合は、ほこり詰まり防止のため格子を取りはずすか、カットしてご使用ください。
- その他異常音などの支障がないか確認してください。



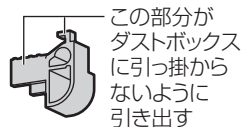
3 ダストボックス方式 室内ユニットを準備する

ダストボックス方式に切り替える

1. ダストボックスのふたとブレードを取りはずす

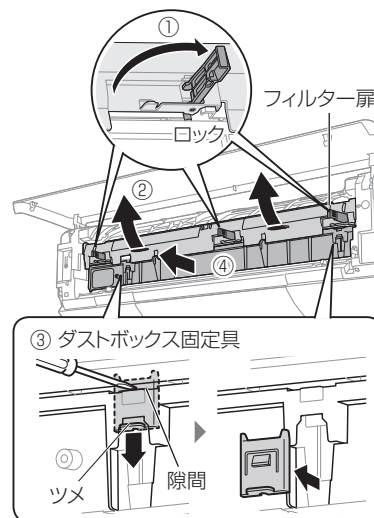


- ① 前面パネルを開ける。
- ② アクティブクリーンフィルターを手で押し上げる。
● ゆっくりと止まる位置まで
- ③ ダストボックスのふたは、ネジ(1本)をはずして取りはずす。
- ④ ブレードは、ネジ(1本)をはずして取りはずす。
● ラジペンチを使うと、取り出しやすくなります。



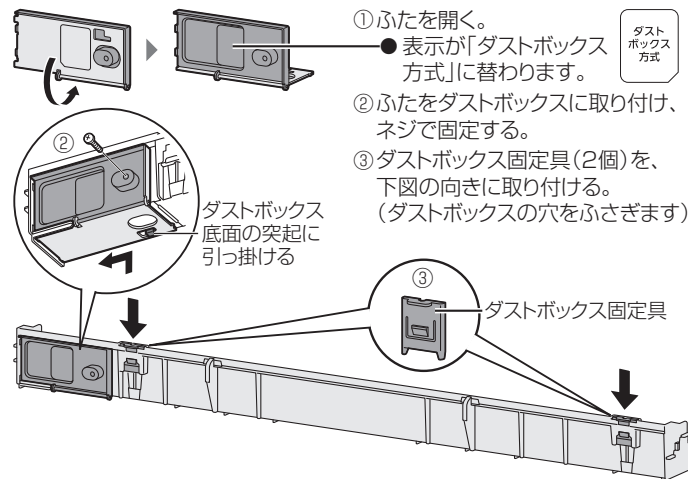
- 取りはずしたブレードとネジはお客様に保管をお願いしてください。(P.16)

2. ダストボックスを取りはずす

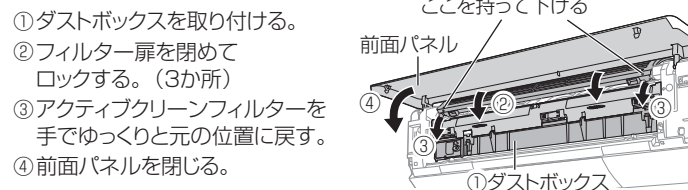


- ① フィルター扉のロックを解除する。(3か所)
- ② フィルター扉を開ける。
- ③ ダストボックス固定具(2個)を取りはずす。
● マイナスドライバーを隙間に差し込み、ツメを持って引き下げ、手前に引き出す。
- ④ ダストボックスを取りはずす。

3. ダストボックスのふたと固定具を付け替える



4. ダストボックスを取り付ける

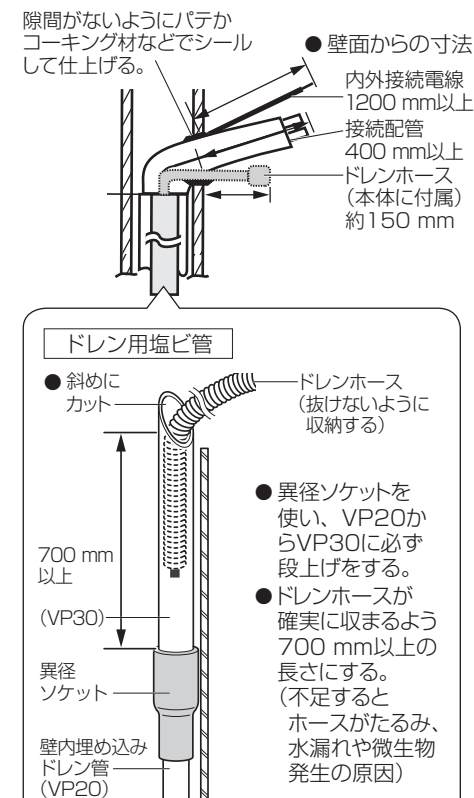


5. 通電後、リモコンで本体のおそうじ設定を「ダストボックス方式」に変更する

- ① **メニュー**を10秒間、長押しし、**排気**が表示されたら、**決定**を押す。
- ② **すろ**を押し、**ボックス**が表示されたら、**決定**を押す。
- 設定が変更されていないと、お手入れ時期がきてもおそうじランプが点滅しません。お客様に正しくお手入れしていただくため、必ず設定を変更してください。



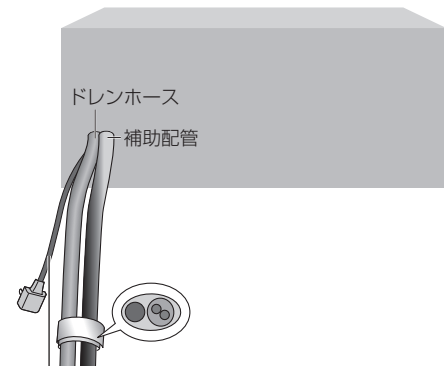
埋め込み配管のとき



③ ダストボックス方式 室内ユニットを準備する

配管・ドレンホースをまとめる

右配管のとき

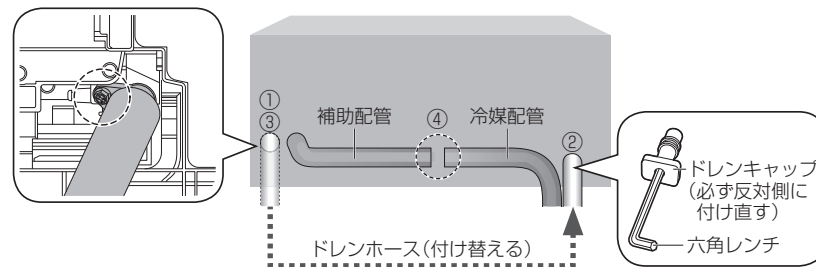


電源コード
・束ねて収納しない。
・天面の隙間に置かない。

① 補助配管とドレンホースをまとめる。

■ 内外接続電線のつなぎかたは→P.13

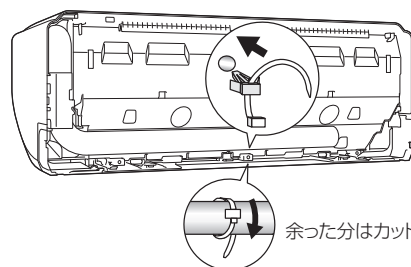
左配管のとき



- ① ドレンホースを固定している六角ネジ (7 mm) をはずし、ドレンホースをはずす。
- ② ドレンキャップをはずし、そこにドレンホースを付け替え、六角ネジで固定する。
 - 付属のドレンホースを必ず使用する。
 - ドレンホースは本体背面で横引きしない。(水漏れなどの原因)
- ③ はずしたドレンキャップは、六角レンチ (4 mm) で反対側に押し込む。
- ④ 配管を接続する。
その場合の冷媒配管の曲げ加工、接続方法は「⑥ 配管を接続する(P.12)」を参照してください。
- ⑤ 右配管と同様に、配管類をまとめる。
 - ドレンホースの固定とドレンキャップの取り付けは確実にを行う。(水漏れの原因)

■ 配管押さえバンドの取り付けかた

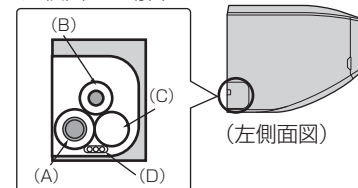
- 延長用フレアパイプ(別売品)使用時や、床上での配管接続作業時にお使いください。



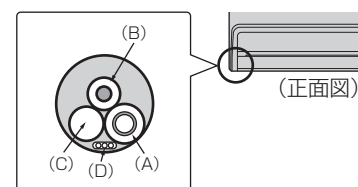
■ 内外接続電線のつなぎかたは→P.13

配管のまとめかた (例)

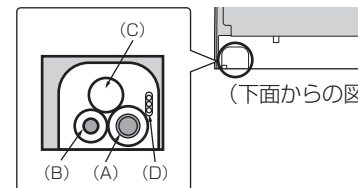
● 左横出しの場合



● 左後ろ出しの場合



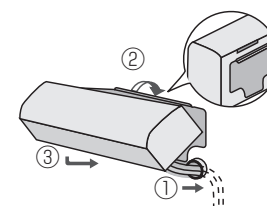
● 左下出しの場合



(A): 配管(ガス側) (B): 配管(液側)
(C): ドレンホース (D): 内外接続電線

④ 室内ユニットを据え付ける

据付板にかける



- ① 配管類と接続電線を配管穴に挿入する。
- ② 上部を据付板にかける。(水平に)
- ③ 下部を固定する。

■ 左配管のとき

背面で配管を接続する場合、次の準備をしておく
と作業が行いやすくなります。

● 下線をはずす。

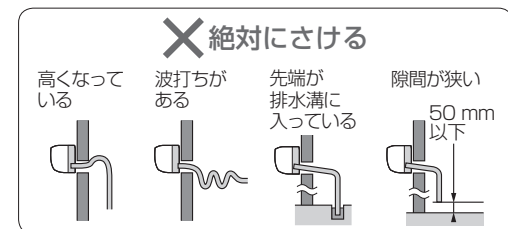
- ① L板をはずす。
- ② 左右のキャップを下げる。
- ③ ネジをはずす。
- ④ 指をかけて下方に引きながら手前に引く。
・下線には本体ラベルが貼ってあるため、必ず元の本体に取り付けてください。

● 緩衝材などを挟み込む。

■ ドレンホースの引き回しかた

○ 下り勾配をつける

- 設置後、必ず水を流してドレン排水を確認してください。(P.14)



● やむを得ず横引きする場合

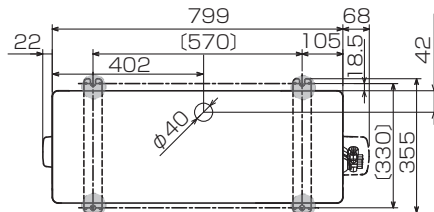


- 高気密住宅などで換気扇などを使用した時や、強風時などに、ドレンホースから外気が流入し、“ポコポコ”という音が発生する場合があります。その場合は、小型エアカットバルブ(別売品: DAD7102)をご使用ください。

⑤ 室外ユニットを据え付ける

据え付けかた

● 冷房能力4.0 kW(100 V)以下の機種



① ドレン排水するときには、先にドレンエルボを取り付ける。(下記参照)

② 水平に設置する。

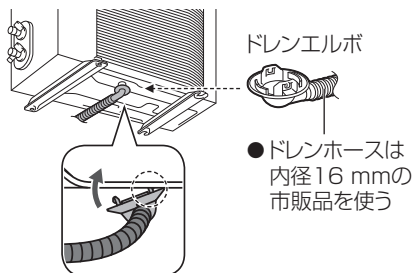
(結露水をドレン口から排出させるため)

● 転倒や位置ズレを防止するため、ボルトで固定することをおすすめします。

③ 積雪などにより、吸い込み部分や吹き出し部分がふさがらないようにする。

■ ドレン排水するとき(一般地のみ)

→ 高さ30 mm以上の台を使用し、ドレンエルボを取り付ける。
(使用しない場合は、お客様に渡す)



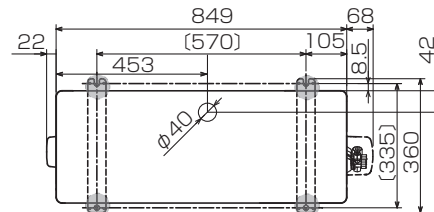
● ドレンホースは内径16 mmの市販品を使う

● 取付時は底板との間にすき間ができます。排水量が多い場合、そのすき間から水漏れするようにしています。

ドレン水の排水先(ホースの先端)は…
(室内/室外ユニット)

- 悪臭や腐食ガスが逆流するおそれがある排水溝(雨水枟・汚水枟など)は避ける。
- 動植物に影響がある所は避ける。
(排水に空気中の不純物などが含まれている場合があるため)

● 冷房能力4.0 kW(200 V)以上の機種



単位:mm
〔 〕寸法はアンカーボルト

寒冷地でのお願い

日中の外気温が0℃以下を2～3日連続する地域や積雪の多い地域では

- ドレンエルボは取り付けない。
(凍結の原因)
 - 積雪などによる性能低下を防ぐために、防雪部材(別売品)の使用をおすすめします。
 - ・ 高脚置台
 - ・ 壁掛け用防雪部材
(別途、専用の壁掛金具が必要)
冷房能力4.0 kW(100 V)以下: DAG7901
冷房能力4.0 kW(200 V)以上: AD-CZSG-17KA
 - ・ 吹き出し口防雪フード
冷房能力4.0 kW(100 V)以下: AD-HESG-KF2
冷房能力4.0 kW(200 V)以上: AD-WXSG-KF2
 - ・ 吸い込み口防雪フード(背面用)
冷房能力4.0 kW(100 V)以下: AD-RXSG-KB2
冷房能力4.0 kW(200 V)以上: AD-WXSG-KB2
 - ・ 吸い込み口防雪フード(左側面用)
冷房能力4.0 kW(100 V)以下: AD-RXSG-KL2
冷房能力4.0 kW(200 V)以上: AD-WXSG-KL2
- 防雪部材の詳細は、エアコンカタログをご覧ください。

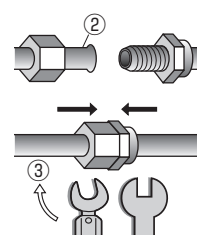
⑥ 配管を接続する

接続の仕方

■ 別売品のペア型コイルを使用する。

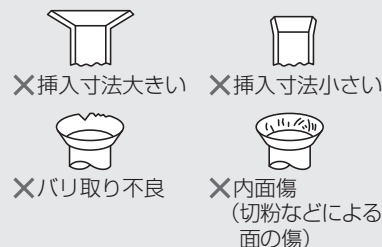
適応機種	2.2 kW～5.6 kW	6.3 kW～9.0 kW
品番	VYP2023	VYP2024
呼び	2分・3分	2分・4分
銅管 (外径) 肉厚	液側	Φ6.35(1/4") t0.8
	ガス側	Φ9.52(3/8") t0.8
締付トルク	液側	14～18 N・m (1.4～1.8 kgf・m)
	ガス側	34～42 N・m (3.4～4.2 kgf・m)

- ① 配管を切断後、切断面を下向きにしてバリを取る。
- ② フレア加工する。
- ③ ナットを仮締めし、トルクレンチで締め付ける。



フレア加工時の注意点

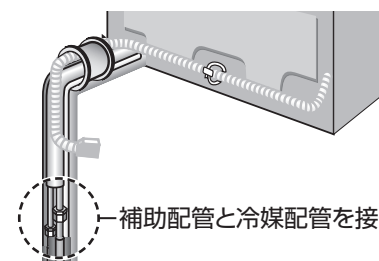
- フレアは広がり内面及び外面に傷やバリ、ひび割れ、しわなどがなく肉厚は均等で光沢があること。



■ 市販の接続配管をご使用の場合

- 「JIS H 3300」に定められている「リン脱酸銅継目無管(C1220T)」で配管肉厚は0.8 mmをご使用ください。
- 配管内へ異物(油分・水分など)が混入しないようにしてください。

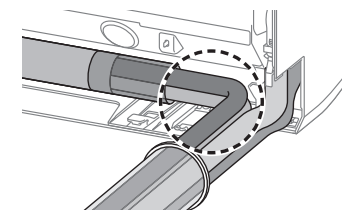
室内ユニットに接続する



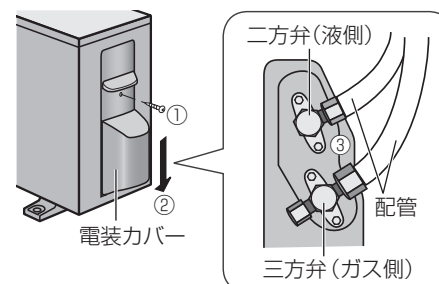
一補助配管と冷媒配管を接続する

■ 左配管時の曲げ加工は…

- R40以下で曲げる。
(曲げ始めの位置が手前すぎたり、曲げRが大きいと、本体の浮きが発生する原因)
- 4分管は、必ずベンダーで曲げる。
(配管を潰さず、小さなRで曲げられます)



室外ユニットに接続する



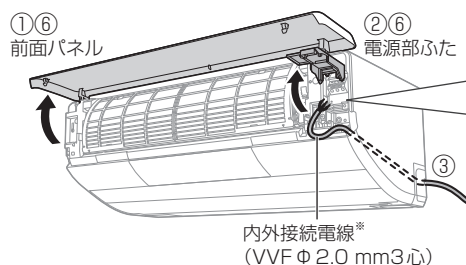
- ① ネジをはずす。
- ② 電装カバーを取りはずす。
- ③ フレア加工した配管をトルクレンチで接続する。

⑦ 内外接続電線をつなぐ

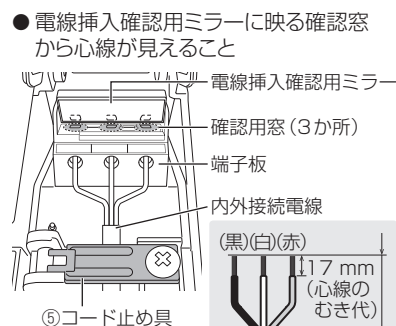
電線接続時の注意点

- 電気配線工事およびD種接地工事(100 Ω以下)は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従う。
- 電源電線は、ノイズ防止のため、TVのケーブル線と2 m以上離す。

室内ユニットにつなぐ



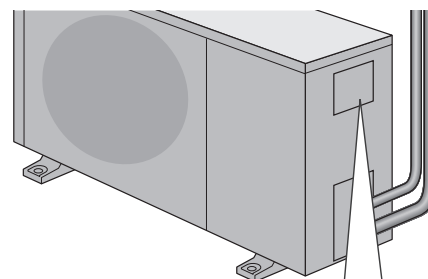
- ① 前面パネルを取りはずす。
- ② 電源部ふたのネジをはずして、ふたを開けコード止め具を開く。
- ③ 内外接続電線を挿入口から通す。
- ④ 心線のむき代部を端子板に差し込む。
(むき代部が見えなくなるまで)
- ⑤ コード止め具で固定する。
- ⑥ 電源部ふたを閉じてネジを締め、前面パネルを取り付ける。



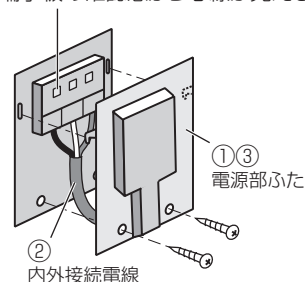
※ 最大電流値が15 A以下かつ電線長さが10 m以下の場合、3心Φ 1.6 mmも使用できます。
(最大電流値は、カタログまたは仕様書で確認)

- 内外接続電線は、強く引っ張らない。
- 2心Φ 2.0 mmと2心Φ 1.6 mmを組み合わせて使用しない。

室外ユニットにつなぐ



- 端子板の確認窓から心線が見えること



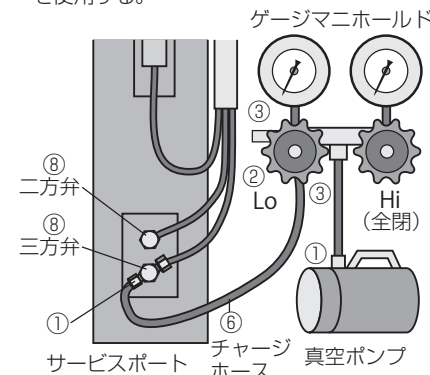
- ① 電源部ふたのネジをはずして、ふたを取る。
- ② 心線のむき代部を端子板に差し込む。
(むき代部が見えなくなるまで)
- ③ 電源部ふたを閉じてネジを締める。

⑧ エアパーズをする

必ず真空ポンプ方式で、

エアパーズしてください。(温暖化防止のため)

- R410A、R32用を使用する。
(R22のチャージホースは接続できません)
- 手動式簡易真空ポンプの場合は、HS-KP1Hを使用する。



- ① サービスポートと真空ポンプにチャージホースを接続する。
- ② 「Lo」を全開にし、真空ポンプを運転する。
- ③ 15分以上運転後、低圧ゲージ-0.1 MPa(-76 cmHg)を確認する。
・「Lo」を全開にし、真空ポンプの運転を止める。約2~3分間そのままにし、ゲージマニホールドの針が戻らないことを確認する。
・真空ポンプアダプター接続側のチャージホースをはずす。
- ④ 配管長が10 mを超える場合は、20 g/mの冷媒を追加充てんする。
- ⑤ 二方弁の弁棒を反時計方向へ90°開き、約10秒後に閉じ、フレアナット接続部のガス漏れ検査をする。
- ⑥ チャージホースをはずし、二方弁と三方弁を全開にする。
- ⑦ サービスポートのキャップをトルクレンチ〔18 N・m(1.8 kgf・m)〕で締め付ける。
- ⑧ 二方弁と三方弁のキャップを手で仮締めし、スパナなどで約30°(1/12回転)〔締め付けトルク20~30 N・m(2.0~3.0 kgf・m)〕で締め付ける。
- ⑨ 各キャップを取り付け後、キャップ部周辺のガス漏れ検査をする。

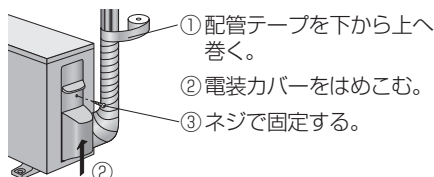
⑨ 点検する

本書の記載事項に従って工事をされなかったことが原因で生じた故障・事故などは、保証の対象にはなりません。

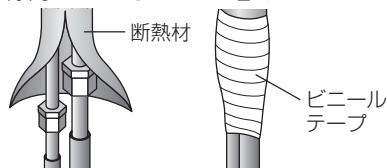
点検項目

- ☐ 電源・電圧は規定通りか？
(電源プラグを差し込む前に、必ずコンセントの電源を確認する)
- ☐ 二方弁・三方弁は開いているか？
(開いていない場合は、「H96」が表示され、運転不能になります)
- ☐ 内外接続電線の挿入・固定は確実か？
- ☐ アース線の接続は確実か？
- ☐ 漏電しゃ断器は設置されているか？
- ☐ 据付板の固定は確実か？
- ☐ 自動排出方式のとき、排気ホースの接続は確実か？
(排気ダンパの動作チェック)
- ☐ ドレンの排水は確実か？(右記)
- ☐ 据付板に確実にまっまっているか？
- ☐ フレアナット接続部からガス漏れしていないか？
● ガス漏れ検査後、接続部の断熱材を、隙間のないようテープで巻く。
- ☐ 取りはずした部品は元どおりか？
特に下枠は別の本体と取り違えない。
(製造番号などラベルの内容が本体と異なると、遠隔操作機器を接続したときに不具合が起こるおそれ)
- ☐ 工具はそろっているか？
- ☐ ダストボックス方式に切り替えしたとき、リモコン設定を変更したか？(P.10)

点検終了後、
テープを巻き、電装カバーを付ける



確認日	年 月 日
確認者	

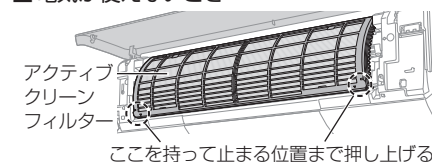


ドレン排水の確認方法

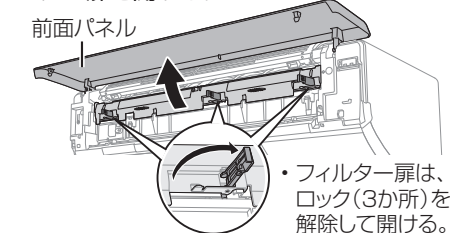
- ① 電源プラグを差し込み、リモコンの「手動おそうじ」ボタンを5秒間、長押しする。
・ルーバーが開き、アクティブクリーンフィルターが天面に移動します。(所要時間:約1分)



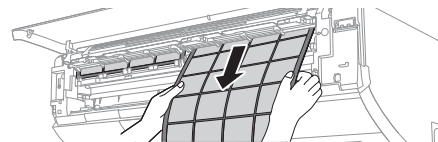
■ 電気が使えないとき



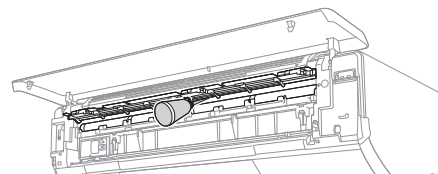
- ② 電源プラグを抜き、前面パネルとフィルター扉を開ける。



- ③ エアフィルターを取りはずす。



- ④ 熱交換器にゆっくり水をかける。
・先の細い水差し(オイラーなど)を使う。



- ⑤ ドレンホースから水が流れていることを確認する。

⑩ 試運転をする

リモコンの「冷房」または「暖房」ボタンを押す
(必ず15分間、連続で試運転する)

15分後も
運転が継続する

注意音(ビビビ)と
共に運転が停止した
(タイマーランプが点滅)

正常です
→ 運転を停止する

異常です
→ 下記に進む

次の手順で処置を行ってください

- ① リモコンの「お知らせ」ボタンを押す。
- ② 異常表示内容を確認する。
(「診断」に続いてH□□かF□□を表示)

■ 主な異常表示内容

H11: 室内外通信異常 → 内外接続電線(VVF配線)を確認
H33: 異電圧機種接続異常 → 接続機種の電圧を確認(機種品番確認)
H52: フィルターそうじ動作異常 → エアフィルターのセットを確認 ^{※1}
H96: 冷媒循環異常 → 二、三方弁開け忘れ ^{※2} とガス圧を確認
F91: 冷凍サイクル異常 → ガス漏れ・三方弁全開を確認

- ③ 電源プラグを抜き、処置をする。
- ④ 電源プラグを差し込み、試運転を再度行う。
(全ての異常は検知できません)

※1: エアフィルターを取り付け直した後、必ずフィルター扉はロックしてください。(3か所)

※2: 二、三方弁が開いているのに「H96」を表示するとき
→ 外気温の影響(高温・極寒)で、熱交換器(室内ユニット内部)が試運転時間内に所定の温度に達していない可能性があります。再度試運転を行い、異常表示がされなければそのままご使用いただけます。

試運転終了後、お客様にご説明を!

- 取扱説明書に従って、操作方法や使用上の注意点をお客様に説明してください。(P.16)

設定を変える

状況に合わせて、リモコンで本体の設定を変えることができます。

契約電流が低いとき/ 電力需要のピーク時に 電力を抑えたいとき 電流設定 (出荷時:「パワーセーブ なし」)	①リモコンの「メニュー」を押し、「決定」を押す。 ②「すすむ」を押して「常時」か「昼間」を選び、「決定」を押す。 (押すたびに「常時」、「昼間」、「なし」に換わる) ●「昼間」: 13時～17時のみセーブします。
エアコンを2台設置する とき リモコン設定 (出荷時:「リモコンNoA」)	片方のエアコンとリモコンを「リモコンNoB」、「NoC」、「NoD」のいずれかに設定する。 ①リモコンの「メニュー」を3回押し、「決定」を押す。 ②「すすむ」を押していずれかの「No」を選び、「決定」を押す。 (押すたびに「リモコンNoB」、「NoC」、「NoD」、「NoA」に換わる)
部屋の中央以外に設置 したとき 設置位置 (出荷時:「中央」)	①リモコンの「メニュー」を4回押し、「決定」を押す。 ②「すすむ」を押して「左」か「右」を選び、「決定」を押す。 (押すたびに「左」、「右」、「中央」に換わる) ・設置位置の詳細は、取扱説明書の「お買い上げ時の設定を変更する」を参照。
自動排出方式で おそうじ機能を 止めたいとき/ 設定を変えたいとき 排気 (出荷時:「排気1」)	①リモコンの「メニュー」を10秒間、長押しし、「排気」が表示されたら、「決定」を押す。 ②「自動」が表示されたら、「決定」を押す。 ③「排気1」が表示されたら、「すすむ」を押して設定を選び、「決定」を押す。(押すたびに「排気2」、「排気3」、「排気4」、「排気1」に換わる) ●「排気2」: フィルターお掃除機能を停止 ●「排気3」: 外気の侵入を防止 ●「排気4」: ファンの回転数を落とす
おそうじ方式を ダストボックス方式に 切り替えたとき おそうじ設定 (出荷時:「自動」)	①リモコンの「メニュー」を10秒間、長押しし、「排気」が表示されたら、「決定」を押す。 ②「すすむ」を押して「ボックス」を選び、「決定」を押す。 (押すたびに「ボックス」、「自動」に換わる)
遠隔操作機器を接続する とき アダプター (出荷時:「設定3」) (P.5 参照)	①リモコンの「メニュー」を10秒間、長押しし、「排気」が表示されたら、指を離す。 ②さらに「メニュー」を2回押し、「アダプター」が表示されたら「決定」を押す。 ③「すすむ」を押して設定を選び、「決定」を押す。 (押すたびに「設定1」、「設定2」、「設定3」に換わる) ●「設定1」: 無線アダプター接続時 ●「設定2」: RACローカルアダプター接続時 ●「設定3」: 無線LAN接続時

移設するとき

温暖化防止のため、冷媒の回収(ポンプダウン)を必ず行ってください。



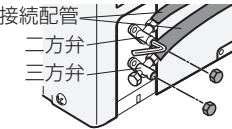
家庭用エアコンにはGWP(地球温暖化係数)が675のフロン類(R32)が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

警告

■ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する
(運転したまま、二方弁や三方弁を開放した状態で冷媒配管をはずすと、破裂やけがなどの原因)

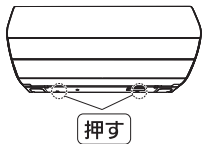
■据付作業では、圧縮機の運転前に冷媒配管を取り付ける
(取り付けず、かつ二方弁や三方弁開放状態で運転すると、破裂やけがなどの原因)

1. ポンプダウンをする

- ①室内ユニットの「応急運転」ボタンを5秒間、長押しし(受信音“ビッ”)、強制冷房運転モードで5～10分間予備運転後、二方弁を弁棒で閉める。
- ②そのまま2～3分間、強制冷房運転モードで運転後、三方弁を閉め、運転を停止する。
- ③二方弁と三方弁に弁棒用のキャップを取り付ける。
- ④接続配管を取りはずす。

2. 室内ユニットをはずす

- 「押す」部分を押しながら手前に引く。
(本体を無理に引っ張ると破損のおそれ)



- ・押せないときは、
 - ①下線をはずす。(P.9)
 - ②マイナスドライバーで本体のツメを上方へ押し上げながら、本体を手前に引く。



3. 移設後は、位置メモリーをリセットし、設置位置を再設定する

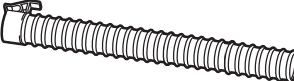
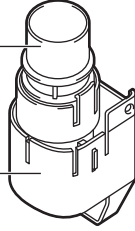
- ①リモコンの「日時」ボタンを5秒間、長押しし、リセットする。(受信音“ビッ”)
 - ②「設置位置」を設定する。(左記参照)
- ダストボックス方式から自動排出方式に切り替えた場合は、リモコンで本体のおそうじ設定を「ボックス」から「自動」に変更してください。(左記参照)

チェックリスト

工事完了後、必ず実施する

確認後、チェック ☒ をしてください。チェック完了後、この据付工事説明書は、お客様に保管をお願いしてください。

自動排出方式の場合	チェック
1 使わなかった付属品は、お客様に保管をお願いする ドレンエルボ(1個) (寒冷地では取り付けない) 	☐
2 お客様に自動排出方式で工事したことを説明する	☐

ダストボックス方式の場合	チェック
1 本体の設定が変更されていることを、リモコンで再確認する メニュー を押し、 もどる を8回押す。  リモコンに表示されることを確認する。 ●表示されないとき→P.10	☐
2 使わなかった付属品は、お客様に保管をお願いする ☐ ドレンエルボ(1個) (寒冷地では取り付けない)  ☐ ダクトカウス(1個)  ☐ 排気ホース  ☐ 排気ホースジョイント(1本)  ☐ ダストボックス内に 取り付けてあった ・ブレード ・ネジ(1本)  ☐ 先端カバー(1個) 	☐
3 お客様にダストボックス方式に切り替え工事したことを説明する ●ダストボックスのお手入れ方法などを取扱説明書に従って説明する。	☐

いずれの方式でも、油污れが発生する場所(台所など)では、エアフィルターのお手入れが必要になることを取扱説明書に従って説明する

☐

パナソニック株式会社 アプライアンス社

〒525-8520 滋賀県草津市野路東2丁目3番1-1号

© Panasonic Corporation 2019

ACXF60-38051
H1019N1109

自動排出方式

ダストボックス方式